

公開シンポジウム

# 諏訪の神と仏教

令和4年10月16日(日)

13時～16時30分

入場無料

諏訪市文化センターホール(諏訪市湖岸通り5-12-18)

主催/神仏融合研究会・諏訪神仏プロジェクト

共催/諏訪市・大昔調査会

## 【プログラム】

御挨拶	金子ゆかり(諏訪市長)
神仏の融合と分離 ―神宮寺の歴史と諏訪―	吉田一彦(名古屋市立大学特任教授)
中世諏訪社における神事と造営 ―鎌倉末期を中心に―	上島 享(京都大学教授)
諏訪神社「御玉会」の神仏習合思想	原 直正(諏訪神仏プロジェクト会長)
( 休 憩 )	
中世神道・中世日本紀における諏訪明神	伊藤 聡(茨城大学教授)
諏訪神仏プロジェクトと神宮寺の仏たち	石壁三千穂(諏訪神仏プロジェクト企画局長)
中国敦煌における地域の信仰と仏教	荒見泰史(広島大学教授)
廃仏毀釈の様相 ―佛法紹隆寺の文書から見る―	渡辺匡一(信州大学教授)
( 休 憩 )	
総合討論	

## 【お申込み・お問い合わせ】

氏名・連絡先・人数を明記のうえ、次のいずれかの方法でお申し込みください。(先着300名まで)

- ① メール: (一般社団法人) 大昔調査会 oomukashichousakai@gmail.com
- ② 電 話: 大昔調査会代表 高見俊樹 090-8328-2544

\* 障害等により特別な配慮が必要な方は、申込時にご相談ください。  
\* 取得する個人情報は、当事業の開催と、新型コロナウイルス感染症に関する防止対策に利用する場合があります。  
\* 新型コロナウイルス感染拡大状況によっては中止となる場合があります。

## 【会場】



## 公開シンポジウム

# 諏訪の神と仏教

日本では、早くから各地の神社に神宮寺が、寺院には鎮守の社がしばしば併設されてきました。神信仰(神道)と仏法(仏教)の融合、混淆は、日本では「神仏習合」と呼ばれています。幕末・明治維新の時代、神仏分離が実施され、諏訪においても、上社、下社の神宮寺の堂塔が破却されました。しかし、仏像は周囲の寺院に移され、大切に守られてきました。本年秋、「諏訪神仏プロジェクト」の企画により、かつての神宮寺の仏像が一斉に一般公開される運びとなりました。

この公開シンポジウムは、神仏の融合を研究している「神仏融合研究会」と、「諏訪神仏プロジェクト」とが主催し、諏訪市および諏訪の大昔調査会の共催を得て開催されるもので、諏訪の歴史と文化を、神道と仏教の特色とその融合を題材に、市民とともに考える催しになっています。入場無料です。ふるってご参加ください。

普賢菩薩像  
諏訪大社上社神宮寺普賢堂旧蔵(諏訪市仏法紹隆寺蔵)



## パネラー紹介

吉田 一彦

名古屋市立大学特任教授 神仏融合研究会研究代表者  
日本古代の仏教、神仏融合、神宮寺の成立・展開を研究  
主な編著・著書 『神仏融合の東アジア史』名古屋大学出版会、『『日本書紀』の呪縛』集英社新書

上島 享

京都大学大学院文学研究科教授  
日本中世の寺院、神社、神仏習合を研究  
主な著書 『日本中世社会の形成と王権』名古屋大学出版会

原 直正

諏訪神仏プロジェクト会長 スワニズム会長  
諏訪の歴史・信仰を研究  
主な著書 『龍蛇神』人間社、『諏訪学』(共著、山本ひろ子編、国書刊行会)

伊藤 聡

茨城大学人文社会科学部教授  
中世神道、神仏習合を研究  
主な著書 『中世天照大神信仰の研究』法蔵館、『神道の形成と中世神話』吉川弘文館

石埜三千穂

諏訪神仏プロジェクト企画局長 スワニズム事務局長  
ライターを経て、諏訪信仰、民俗学、考古学等の研究会「スワニズム」を結成して研究  
主な編集刊行誌 『スワニズム』1～5号

荒見 泰史

広島大学大学院人間社会科学研究科教授  
敦煌文書、敦煌における諸宗教の複合、融合を研究  
主な著書 『敦煌講唱文学写本研究』中華書局、『敦煌変文写本的研究』中華書局

渡邊 匡一

信州大学人文学部教授 諏訪神仏プロジェクト顧問  
寺社資料、日本の宗教文化、神仏習合を研究  
主な編著 『続神道大系 習合神道』神道大系編纂会

